場所　神奈川県藤沢市

面積　20.2ha



活動目的

地域のエコロジカルネットワークの一角として、当サイトの適切な保全・管理が、地域の生物多様性向上に貢献することを目的とする。

また、教育研究機関としてサステイナブルキャンパスの実現を目指した先進的な取り組みの実践や地域へ波及することを目的とする。

サイト概要

当サイトは、中高等部、学部、大学院が集う教育・研究機関の場であり、それらの施設を囲むようにして約13haの樹林地を有する。樹林地は、主にシラカシ・スダジイが優占する常緑広葉樹の造成林とキャンパス造成前から残るクヌギ・コナラが優占する落葉広葉樹の二次林で構成される。その他に調整池やキャンパス裏手に造成された湿地性ビオトープなどの水辺環境、ススキやチガヤ、芝地などの草地環境を有する。様々な環境が維持されることで、里山に見られる多くの動植物の生息・生育場所として機能している。また、当サイトは教育・研究機関の場としての強みを活かした環境DNA、リモートセンシング技術による生物多様性モニタリングを実践している。

土地利用の変遷

藤沢市都市マスタープランの「健康と文化の森地区」は、遠藤笹窪谷の豊かな自然と医療体制を備えた「健康の森」と教育・研究機能を有するSFCの「文化の森」で構成される。「文化の森」として、1989年に遠藤笹窪谷の南に続いていた西ノ谷を開発してSFCが造られた。その後教育施設が敷地内に増築されていき、1992年に湘南藤沢中・高等部棟が開設された。2001年に遠藤笹窪谷の下流部にあたる位置に看護医療学部棟が開設された。その際谷戸とキャンパスの緩衝地になるように植栽したハンノキ林を主体とした湿地性ビオトープも併せて造成された。

サイト周辺の環境

藤沢市内で最も生物多様性が高いエリアの1つである遠藤笹窪谷に隣接する。藤沢市西北部から茅ヶ崎市北部にかけて農地と丘陵域が広がり、県立茅ケ崎里山公園をはじめ複数の谷戸が残っており、都市化が進んでいる神奈川県東部においてはまとまった自然が残っている地域である。

アピールポイント

・生物多様性の高い緑地に囲まれ、エコロジカルネットワークの一角に位置するため、里山に見られる動植物が多く確認できる。

・生物多様性保全、持続可能な地域づくりに向け、教育研究機関として最新の技術も取り入れた先進的な取り組みを積極的に実施している。SFCの理念の1つに学際的研究教育(分野横断的研究教育)があり、様々な専門分野からサステイナブルなキャンパスづくりが進められている。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

・SFC造成前から残っている樹林地は、コナラ・クヌギ群落が優占し、林床にはススキやササ類が生える。
・大学と谷戸の境界に造られたビオトープは、植栽したハンノキを主体とする湿地性ビオトープであり、林内に1本の細流が流れる。多少の起伏があり、小高い部分にはススキ、水路付近は湿性の植物が優占する。
・樹林地に加え、ススキ、チガヤの草地や芝地、水辺が点在し、里山に見られる動植物を多く確認できる。

【主な植生】

コナラ・クヌギ群落、ハンノキ植栽林、ススキ群落・チガヤ群落

【確認された主な動植物など】

・樹林、草地、水辺が点在し、それぞれの環境、もしくはそれぞれがセットであることで、生育・生息する種が多く確認される。藤沢市や茅ヶ崎市の環境指標種に選定されている種も複数確認できる。
【植物：122種】エノキ、カントウタンポポ、オニスゲ、ミゾソバ、ホタルブクロ、キランソウ、ダイコンソウ
【哺乳類：9種】ホンドタヌキ、ノウサギ、アズマモグラ
【鳥 類：84種】ノスリ、フクロウ、キジ、アオゲラ、コゲラ、ホトトギス、ヒバリ、ツバメ、モズ、ウグイス、ホオジロ、カシラダカ、エナガ、ジョウビタキ
【昆虫類：111種】キアゲハ、ジャコウアゲハ、オニヤンマ、トノサマバッタ、ハラビロカマキリ、キンヒバリ、シブイロカヤキリ
【水生生物：16種】カワニナ、キベリヒラタガムシ、シマアメンボ
【爬虫類：7種】ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ　など



写真の説明：ノウサギ



写真の説明：ノスリ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

・雨水調整機能を有する調整池から草地、樹林地まで緩やかな傾斜で接続し、エコトーンを形成しており、それぞれの環境を好む種や成長過程で生息環境が変わるカエル類やトンボ類などの生息を可能にしている。
・キャンパスに広がる13haの樹林地の大半はシラカシ・スダジイの造成林で、一部にコナラ・クヌギの二次林が残る。暑熱環境の緩和や炭素固定の機能を提供するほか、様々な動植物の生息・生育を可能にしている。

【主な植生】

ヨシ群落、コナラ・クヌギ群落、シラカシ・スダジイ群落

【確認された主な動植物など】

●調整池周辺に生息する動物
【鳥　類】アオサギ、ダイサギ、カワセミ、カルガモ、セグロセキレイ、コチドリ、マガモ、コガモ
【昆虫類】トンボ類：シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、アキアカネ、ウチワヤンマ、イトトンボ類
【両生類：2種】ニホンアマガエル　など

●樹林地に生息する動植物
【植　物】フジカンゾウ、サルトリイバラ、ヤブラン、ホウチャクソウ、ミズヒキ
【哺乳類】アカネズミ（(3)の里地里山の一部の種も樹林地を利用している）
【鳥　類】シジュウカラ、ヤマガラ、キビタキ、ルリビタキ、カケス、シロハラ、アオジ、ヤマシギ、シメ
【昆虫類】ルリタテハ、オオミズアオ、ヤママユ、ヤブキリ、ササキリ、ハヤシノウマオイ、ヤマトタマムシ、アオオサムシ



写真の説明：ギンヤンマ



写真の説明：アオオサムシ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

本サイトは、主にシラカシ・スダジイが優占する常緑広葉樹の造成林とキャンパス造成前から残るクヌギ・コナラが優占する落葉広葉樹の二次林と、調整池やキャンパス裏手に造成された湿地性ビオトープなどの水辺環境、ススキやチガヤ、芝地などの草地環境を有する。

【確認された希少種】

・主に県内で減少しつつある水辺、樹林、草地性の希少種を中心に、国のレッドリスト掲載種が9種、神奈川県レッドリスト掲載種が48種確認されている。

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容

【概要】
・教育機関の場として安全面や利便性に配慮した「教育・研究エリア」、生物多様性に配慮した「生物多様性エリア」に大別する。
・全体の管理は業者が実施する。湿地性ビオトープを中心に一部の管理を一ノ瀬友博研究室により実施している。
【活動内容】
・主に樹林地、草地管理を行っている。
・エリアによって管理強度、管理内容が異なる。
－教育・研究：安全面や景観維持の理由から年3回の草刈りや危険木除去を実施。
－生物多様性：ナラ枯れの被害木除去、枯死木を残すなど手を入れない箇所も創出
－ビオトープ：外来植物の継続した駆除、エコスタック設置など生物多様性に配慮

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】
植物、哺乳類、鳥類、昆虫類、水生生物（主に甲殻類、魚類、水生昆虫類）、両生類、爬虫類

【モニタリング場所】
キャンパス全域を対象とする。調査ルートやエリアを設定し、定期的に調査を実施する。

【モニタリング手法】
【植物】コドラート法など　【鳥類】ラインセンサス・スポットセンサス法
【哺乳類】カメラトラップ法など　【水生生物】タモ網を用いたすくい取り法
【昆虫類】踏査、スウィーピング法、各種トラップ調査　【両生爬虫類】踏査

【モニタリングの実施時期及び頻度】
【植物】<時期> 初夏、秋　<頻度> 各１回　【両生爬虫類】適宜記録
【哺乳類・鳥類・水生生物】<時期> 通年　<頻度> 各月１~2回
【昆虫類】<時期> 春、夏、秋　<頻度> 各月１~2回

【モニタリング実施体制】
主に一ノ瀬友博研究室・Satoyama Fujisawa Campus（SatoFC）プロジェクトにより実施